

新田ゼラチン株主通信 第75期 ご報告

2013.4.1 ▶ 2014.3.31

実績 売上高 **277** 億円  
営業利益 **20** 億円

12年3月期

実績 売上高 **287** 億円  
営業利益 **15** 億円

13年3月期

# NITTA GELATIN 2014 ▶

業績見通し 売上高 **365** 億円  
営業利益 **18** 億円

15年3月期

中期経営計画 売上高 **410** 億円  
営業利益 **42** 億円

16年3月期

 新田ゼラチン株式会社

証券コード：4977

# PERFORMANCE HIGHLIGHTS

	(単位:百万円)		
	第73期 2012年3月期	第74期 2013年3月期	第75期 2014年3月期
<b>会計年度:</b>			
売上高	27,763	28,772	<b>32,814</b>
営業利益	2,015	1,595	<b>955</b>
当期純利益	1,375	1,525	<b>665</b>
研究開発費	895	1,026	<b>1,004</b>
設備投資額	769	1,426	<b>3,102</b>
減価償却費	841	825	<b>914</b>
営業活動によるキャッシュ・フロー	568	2,050	<b>△692</b>
投資活動によるキャッシュ・フロー	△733	△1,557	<b>△3,105</b>
財務活動によるキャッシュ・フロー	713	△376	<b>3,875</b>
現金及び現金同等物の期末残高	2,078	2,258	<b>2,406</b>
<b>会計年度末:</b>			
有形固定資産	5,387	6,287	<b>8,804</b>
固定負債	6,087	5,828	<b>7,528</b>
純資産	8,108	9,724	<b>13,781</b>
総資産	23,371	25,190	<b>31,389</b>
<b>1株当たり情報(円):</b>			
1株当たり純資産(BPS)	509.41	607.31	<b>742.20</b>
1株当たり当期純利益(EPS)	99.87	96.72	<b>37.90</b>
<b>その他指標(%):</b>			
自己資本比率	34.4	38.0	<b>43.4</b>
自己資本利益率(ROE)	19.4	17.3	<b>5.7</b>
総資産利益率(ROA)	6.1	6.3	<b>2.4</b>
配当性向	10.0	14.5	<b>31.7</b>

注1: 第73期の1株当たり当期純利益は、当期純利益から優先株式償還差額を控除して算定しております。  
 注2: 2011年4月27日開催の取締役会決議により、2011年5月23日付で全てのA種優先株式の取得及び消却を行っております。  
 注3: 第73期連結会計年度より、「1株当たり当期純利益に関する会計基準」(企業会計基準第2号 2010年6月30日)、「1株当たり当期純利益に関する会計基準の適用指針」(企業会計基準適用指針第4号 2010年6月30日)及び「1株当たり当期純利益に関する実務上の取扱い」(実務対応報告第9号 2010年6月30日)を適用しております。

# NITTA GELATIN AT WORK

Amaze the World!—世界をあっと思わせる会社—  
 このスローガンのもと、お客様や市場のニーズを読み取り、製品開発・用途開発を行い、お客様の期待の一步先を行く製品・サービスをスピーディーに提供し、お客様に感動いただくことで当社の信頼を高め、事業を拡大しています。



## FSSC22000 認証を取得

当社大阪工場は、2014年3月、食品安全マネジメントシステムFSSC22000の認証を取得しました。これにより当社ゼラチンの食品としての安全・安心が第三者機関により確認されます。米国、カナダ、中国、インドの4工場でも当認証を取得しており、グローバル市場での競争力が強化されました。

## 第43回インターネブコン ジャパンに出展

2014年1月に開催された第43回インターネブコン ジャパンにシーリング材G-zain™を出展しました。スマートフォンやタブレットPCに必要な防水・防塵のためのパッキンの代替として、紫外線硬化型ガスケットシステムをPRしました。

## 第18回中国国際食品添加剤和配料展覧会に出展

2014年3月、中国・上海で開催された第18回中国国際食品添加剤和配料展覧会にコラーゲンペプチドWellnex®を出展しました。併せて、現京都大学の佐藤健司教授によるコラーゲンペプチドの機能性についてのセミナーも開催しました。



## 『コラゲネイド』がモンドセレクション最高金賞を3年連続受賞

2014年4月、「モンドセレクション」のダイエット及び健康製品カテゴリで、『コラゲネイド』が3年連続で最高金賞を受賞しました。

## 「健康長寿とアンチエイジング」セミナー開催

一般消費者の方にコラーゲンペプチドの良さをお知らせするために、2014年3月、大阪の天王寺都ホテルで「健康長寿とアンチエイジング」セミナーを開催しました。同志社大学大学院の米井嘉一教授に、いつまでも若々しく生きるための方法を伝授していただきまし。また、タレントの遙洋子さんには、自分らしくウキウキと生きて輝いていくための秘訣をお話しいただきました。

## 新コラーゲンペプチド工場完成

2014年5月、ニッタゼラチンユーエスエーInc.にコラーゲンペプチド工場が完成しました。日本、中国、インドに加えて米国での生産体制が整い、さらにグローバル事業展開を加速します。

## 新任取締役からのメッセージ



取締役 執行役員  
ゼラチン事業部長  
レイモンド・メルツ

### 略歴

1984年 トロント大学大学院修了  
1995年 ニッタゼラチンカナダInc.入社  
2005年 当社執行役員就任(現任)

2006年 ニッタゼラチンカナダInc.CEO就任  
2014年 当社ゼラチン事業部長(現任)  
当社取締役就任(現任)

### 当社のグローバルネットワーク

海外事業所: **13**  
従業員数: 国内 **288**名  
(45%)  
海外 **347**名  
(55%)



(2014.3末現在)

## グループの総力を結集してグローバル市場で打ち勝つ

### ゼラチン製造のイノベーション

私は入社以来、ニッタゼラチンカナダInc.の製造責任者として20年近くゼラチン製造に携わり、そのイノベーションに取り組んできました。その結果、カナダ工場ではゼラチンの生産能力を3倍に引き上げるとともに、グローバル品質を達成しました。また、そのノウハウを活かして米国にゼラチン工場を建設し、安定稼働を実現しました。

これにより豚由来ゼラチンの生産を拡大し、牛由来ゼラチンに偏っていた原料ポートフォリオのバランスを整え、BSEや写真のデジタル化による、ゼラチン需要構造の大きな変化に対応できました。

### グローバルコストと品質向上

省エネルギーや生産性向上のための設備投資、新原料拠点開発、さらに、徹底したコスト削減により、

グローバル競争に打ち勝ちます。

市場のニーズを先取りした最適品質の製品開発、安定品質での供給を、アジア市場を中心にグローバルに展開していきます。

### 供給能力の増強

アジア市場のゼラチン需要増加に応えるためには、供給能力の増強は欠かせません。日本、カナダ、米国、インドの既存工場の生産能力の向上に加え、提携や買収など戦略的な投資を行うことを視野に入れています。

これからは、新田ゼラチングループのゼラチン事業責任者として、大阪の本社で勤務します。グローバルな視点で市場の変化を先取りし、原料調達が多様化、生産能力向上、品質向上、製品開発をスピーディーに進めていくことが私の役割です。

アジアでの  
ビジネスチャンス

		成長市場		当社製品
	インド	世界の医薬品の製造拠点	カプセル	ゼラチン
	中国	食の欧米化	加工食品(ソーセージ)	コラーゲンケーシング
		高い美容・健康志向	健康食品	コラーゲンペプチド
	ベトナム	冷蔵庫の普及	洋菓子	ゼラチン、食品材料



執行役員  
ヨーゲン・ギャラート

略歴

1991年 ニューヨーク州立大学卒業  
1991年 ニッタゼラチンエヌエーInc.入社  
2006年 同社CEO就任(現任)

2014年 ニッタゼラチンカナダInc.CEO就任(現任)  
ニッタゼラチンユーエスエーInc.CEO就任(現任)  
当社執行役員就任(現任)

当社のグローバル事業展開



各事業	主要製品
ゼラチン	ゼラチン
ペプチド	コラーゲンペプチド
ケーシング	コラーゲンケーシング
ライフサイエンス	コラーゲン、ゼラチン
食品材料	食品用ゲル化剤・安定剤、 コンシューマ商品
接着剤	シーリング材、ホットメルト形接着剤

## グローバル事業戦略を支える3つの強み

### 日本と米国の懸け橋として

私は大学を卒業後、ニッタゼラチンエヌエーInc.に入社し、北米・欧州でのゼラチン販売に携わってきました。以来、お客様とともに成長する企業理念と「おもてなしの心」を学び、顧客満足度の向上に努めてきました。

入社当時は写真用のゼラチンが好調でしたが、その後デジタル化の波に押され、その需要は大きく落ち込みました。しかし当社は、これまで培ってきた商品開発力、技術開発力、品質安定力を武器に、新たな商材となる医薬用カプセルや機能性食品用途に展開することで、大きく発展しています。

### 当社の強み

#### 1. 高い技術力と品質管理能力

牛、豚、魚といった原料からゼラチンを製造し、グローバルに販売できるのは、世界で当社だけです。また、写真用のゼラチンで培った技術力と高い品質安定性に加え、食品安全マネジメントシステムFSSC22000認証を取得したことで、さらにお客様に安心してお使いいただくことが可能となりました。

#### 2. リスクマネジメント

動物由来の製品を扱う当社にとって、BCP(事業継続計画)のために原料調達と製造の多様化によるリスクマネジメントが何よりも重要です。牛由来ゼラチンは日本とインド、豚由来ゼラチンはカナダと米国にそれぞれ拠点を分散しています。

#### 3. グローバルネットワーク

日本、カナダ、米国、インド、中国、ベトナムの各国に生産、販売、アプリケーションラボを有し、アジア各国には現地代理店があります。このグローバルネットワークにより、世界中に高品質で一歩先を行くサービスをご提供することができます。

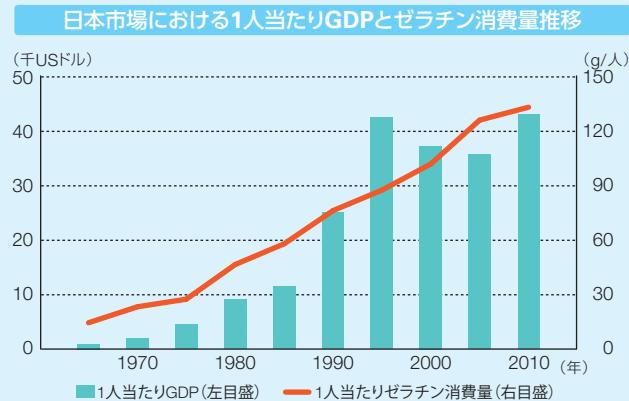
今、世界経済発展の中心はアジアであり、そこに拠点を置く当社は、この3つの強みによって需要をキャッチアップし、事業を拡大します。これを確実なものとするため、「お客様の一歩先を行く提案」を行い、お客様とともに成長していきます。



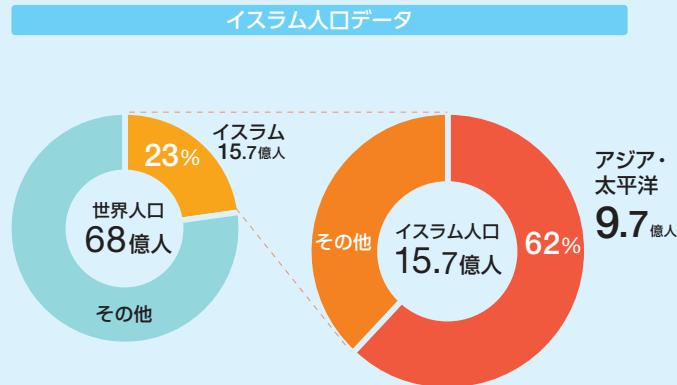
取締役 執行役員  
営業本部長  
尾形 浩一

略歴  
1981年 東北大学卒業  
2005年 当社入社  
2010年 執行役員就任(現任)

2012年 取締役就任(現任)  
2013年 営業本部長(現任)



出典: IMF-World Economic Outlook, 日本ゼラチン・コラーゲンペプチド工業組合資料より推計



出典: Pew Research Religion & Public Life Project, Mapping the Global Muslim Population, 2009

# Win out !! in growing Asian market

## アジア圧倒的No.1になるために

ゼラチンの消費量は、国民1人当たりGDP(国内総生産)の上昇とともに増加する傾向にあります。これは、経済成長とともに生活レベルが向上して食の欧米化が進み、加工食品、健康食品、医薬品の消費が増加するためです。

今、世界経済の発展の牽引力はアジアです。インドネシアやマレーシアなどのイスラム圏では牛由来ゼラチン、ベトナムやフィリピンなど非イスラム圏では豚由来ゼラチンの需要増加が期待できると考えています。当社は、このイスラム圏での販売に欠かすことのできないハラール認証を取得したゼラチンを、日本とインドで生産しています。アジア圧倒的No.1になるためには、今後各国のニーズに合わせたゼラチンを供給していくことが、もっとも重要な課題です。

## 健康食品の需要増加は絶好の ビジネスチャンス

世界的な健康志向の高まりによって、健康食品の消費が拡大しています。例えば、ファイバー入りグミキャ

ンディーをはじめとした機能性食品や、カプセルの需要が増えています。

これらのゼラチンの需要拡大に対して、さらなる生産能力の向上や用途に合った製品の開発・提案が必要です。顧客満足度を高め、皆様の期待に応えていけるように、グループ全体の力を結集させ、これからも新たな挑戦をします。

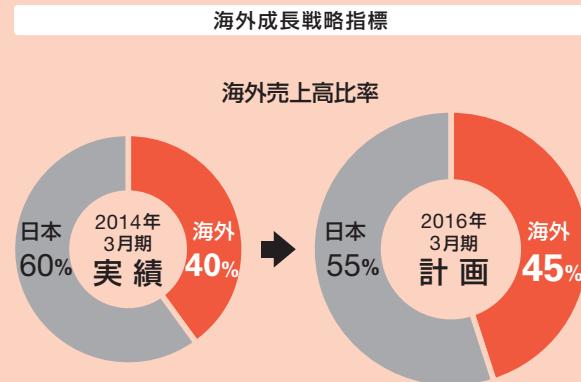
## お客様をアッと驚かせる 製品の開発と提案

現在、コンビニエンスストアの総菜市場が拡大を続けています。この用途では、和洋中の美味しさを引き立たせるゼラチンやゲル化剤が求められています。例えば、サラサラ食感の和だし、キラキラ光るトマトソースジュレ、パラパラのチャーハン、濃厚感たっぷりの豚骨スープ……。当社は食感のプロフェッショナルとして、今までにない食感や、素材を活かす製品を開発し提案します。



**「アジア圧倒的No.1、  
世界オンリーワン」企業になるため、  
グローバル経営の強化、  
グローバルブランド展開、  
新事業創造により、企業価値を高めます。**

代表取締役社長  
曾我 憲道



株主の皆様には、平素より格別のご愛顧を賜り、厚くお礼申し上げます。また、2013年7月に実施した公募増資に際しては多大なご支援を賜り、改めて感謝申し上げます。

当社は、事業成長の機会を海外に求めて事業戦略を進め、創業100年を迎える2018年には、世界有数の高付加価値企業となることを実現します。

**グローバル経営の強化**

海外での事業戦略を確実かつ迅速に進めるため、人材のグローバル化を推進します。すでに経営陣は、人材のダイバーシティ(多様化)を始めました。また、迅速な経営判断を行うために、ITインフラの整備を行い、グローバル経営情報システムを強化します。

**グローバルブランド展開**



Wellnex®は、食品の第三機能と言われる生体調整機能を発揮する、高機能コラーゲンペプチドです。これは、当社独自の機能性研究で、肌、骨、関節、筋肉の健康を維持することが実証されています。



G-zain™は、スマートフォンやデジタルカメラなどへの防水パッキングの取り付けを、完全自動化する

シーリング材です。これはホットメルト形接着剤で培った特許技術から生まれた高機能樹脂です。

beMatrix®は、医療用ゼラチン・コラーゲンです。直接人の体に入れることができる高い安全性を当社特許技術により実現した、再生医療や医療機器の実用化に欠かせない素材です。

beMatrix®



今後これらのブランドに経営資源を集中し、グローバルに展開していきます。

**新事業創造**

iPS細胞などの再生医療は、世界中で実用化に向けた研究開発が進んでいます。すでに製品化された人工骨や人工皮膚用の素材に加え、医療分野で必須となる高度な安全性を確保した医療用ゼラチン・コラーゲンの事業化に向け、より一層グローバルに展開していきます。

グローバル企業としてさらに発展を続ける「世界をあっ驚かせる会社」新田ゼラチンに、これからもご支援をお願いいたします。

新田ゼラチン株式会社

代表取締役社長 曾我 憲道

## 営業概況

### コラーゲン素材事業

売上高**224.3**億円(前期比 +20.1%)  
セグメント利益**14.2**億円(前期比 △20.8%)



#### ■ゼラチン

##### 日本

- 食用とカプセル用販売が増加
- 急激な円安による輸入仕入れ価格の上昇、世界的な原材料価格の高騰に伴う増加コストの価格転嫁が十分に浸透せず、採算性が低下

##### 北米とアジア市場

- 食用とカプセル用の旺盛な需要を背景にした販売数量の拡大と価格改定により、売上は好調に推移、利益も堅調に推移

#### ■ペプチド

##### 日本とアジア市場

- 販売が堅調に推移
- 原材料価格の上昇により採算性は低下

#### ■ケーシング

- 第2四半期に米国子会社で製造販売するコラーゲンケーシングで発生した品質問題により、販売が伸び悩み損失を計上

### フォーミュラソリューション事業

売上高**103.7**億円(前期比 +2.8%)  
セグメント利益**9.2**億円(前期比 △20.1%)



#### ■食品材料

- 全般的に伸び悩み売上は微増
- 原材料価格の上昇により、利益は減少

#### ■接着剤

- ホットメルト形接着剤は、消費税増税を控えた需要増により好調に推移
- シーリング材は、新規採用が遅れ売上は伸び悩み
- シーリング材の顧客開拓を強化したため販売費及び一般管理費が増加し、利益は減少

## 財務諸表(要旨)

### 連結貸借対照表 (単位:百万円)

	2013年3月末	2014年3月末	前期末比
<b>資産の部</b>			
<b>① 流動資産</b>	<b>15,319</b>	<b>18,685</b>	<b>3,365</b>
現金及び預金	2,278	2,426	147
受取手形及び売掛金	5,839	8,164	2,324
商品及び製品	4,404	4,732	327
仕掛品	918	1,089	171
原材料及び貯蔵品	1,508	1,820	311
繰延税金資産	134	158	24
その他	251	306	55
貸倒引当金	△16	△13	2
<b>② 固定資産</b>	<b>9,870</b>	<b>12,704</b>	<b>2,833</b>
有形固定資産	6,287	8,804	2,516
建物及び構築物(純額)	2,792	2,815	22
機械装置及び運搬具(純額)	1,343	2,139	795
土地	761	768	6
リース資産(純額)	438	660	222
建設仮勘定	777	2,260	1,483
その他(純額)	173	159	△13
無形固定資産	48	50	2
投資その他の資産	3,534	3,849	314
<b>資産合計</b>	<b>25,190</b>	<b>31,389</b>	<b>6,199</b>

	2013年3月末	2014年3月末	前期末比
<b>負債の部</b>			
<b>流動負債</b>	<b>9,637</b>	<b>10,080</b>	<b>443</b>
支払手形及び買掛金	3,736	4,255	518
短期借入金	1,145	1,121	△23
1年内返済予定の長期借入金	2,068	1,932	△135
リース債務	154	215	61
その他	2,532	2,554	22
<b>③ 固定負債</b>	<b>5,828</b>	<b>7,528</b>	<b>1,699</b>
長期借入金	3,142	4,415	1,273
その他	2,686	3,112	425
<b>負債合計</b>	<b>15,465</b>	<b>17,608</b>	<b>2,142</b>
<b>純資産の部</b>			
<b>株主資本</b>	<b>11,170</b>	<b>14,734</b>	<b>3,564</b>
その他の包括利益累計額	△1,592	△1,097	494
少数株主持分	147	144	△3
<b>④ 純資産合計</b>	<b>9,724</b>	<b>13,781</b>	<b>4,056</b>
<b>負債純資産合計</b>	<b>25,190</b>	<b>31,389</b>	<b>6,199</b>

### POINT

#### ① 流動資産

現金及び預金が147百万円、受取手形及び売掛金が2,324百万円、たな卸資産が810百万円増加

#### ② 固定資産

設備投資に伴い有形固定資産が2,516百万円、投資有価証券が307百万円増加

#### ③ 固定負債

長期借入金が1,273百万円増加

#### ④ 純資産

利益剰余金が429百万円、公募増資及び第三者割当増資による普通株式発行により、資本金が1,567百万円、資本剰余金が1,567百万円増加

## 財務諸表(要旨)

### 連結損益計算書 (単位:百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	前期比
<b>① 売上高</b>	<b>28,772</b>	<b>32,814</b>	<b>4,041</b>
売上原価	22,100	26,329	4,229
売上総利益	6,671	6,484	△187
販売費及び一般管理費	5,075	5,528	452
<b>② 営業利益</b>	<b>1,595</b>	<b>955</b>	<b>△640</b>
営業外収益	559	368	△191
営業外費用	176	208	32
<b>③ 経常利益</b>	<b>1,978</b>	<b>1,115</b>	<b>△863</b>
特別利益	11	89	77
特別損失	75	134	59
税金等調整前当期純利益	1,915	1,070	△845
法人税、住民税及び事業税	402	350	△51
法人税等調整額	1	67	66
法人税等合計	403	418	14
少数株主損失(△)	△13	△13	△0
<b>当期純利益</b>	<b>1,525</b>	<b>665</b>	<b>△859</b>

### 連結キャッシュ・フロー計算書 (単位:百万円)

	2013年3月期	2014年3月期	前期比
<b>① 営業活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>2,050</b>	<b>△692</b>	<b>△2,743</b>
<b>② 投資活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△1,557</b>	<b>△3,105</b>	<b>△1,548</b>
<b>③ 財務活動によるキャッシュ・フロー</b>	<b>△376</b>	<b>3,875</b>	<b>4,251</b>
現金及び現金同等物に係る換算差額	63	70	6
現金及び現金同等物の増加額	180	147	△33
現金及び現金同等物の期首残高	2,078	2,258	180
現金及び現金同等物の期末残高	2,258	2,406	147

## POINT

### ① 売上高

前期比14.0%増加、好調に推移

### ② 営業利益

日本での価格転嫁の遅れを主要因として前期比40.1%減少

### ③ 経常利益

インド関連会社の業績悪化により、持分法による投資利益が減少し前期比43.6%減少

## POINT

### ① 営業活動によるキャッシュ・フロー

税金等調整前当期純利益1,070百万円、減価償却費914百万円、売上債権の増加額2,147百万円及びたな卸資産の増加額624百万円

### ② 投資活動によるキャッシュ・フロー

有形固定資産の取得による支出2,949百万円

### ③ 財務活動によるキャッシュ・フロー

長期借入れによる収入3,222百万円、長期借入金返済による支出2,165百万円及び株式の発行による収入3,135百万円

## 会社情報

### 会社概要 (2014年3月31日現在)

本店…… 〒556-0022 大阪市浪速区桜川4丁目4番26号

創業…… 1918年1月

設立…… 1945年2月

資本金… 3,144,929,400円

売上高… 単体:221億円(2014年3月期)  
連結:328億円(2014年3月期)

従業員数 単体:255名  
連結:635名

事業内容 食用、医薬用、写真用ゼラチンの製造・販売  
コラーゲンペプチドの製造・販売  
コラーゲンケーシングの製造・販売  
化粧品用、生体材料用、生化学用コラーゲンの製造・販売  
ゲル化剤、安定剤などの食品材料の製造・販売  
包装用、製本用、建材用、衛材用接着剤の製造・販売

事業所… 国内12カ所  
海外13カ所

### 役員 (2014年6月26日現在)

代表取締役社長 …… 曾我 憲道  
取締役 専務執行役員 …… 佐々木 恒雄  
取締役 執行役員 …… 尾形 浩一  
取締役 執行役員 …… 玉岡 徹  
取締役 執行役員 …… レイモンド・メルツ  
取締役 …… 新田 浩士  
取締役(社外) …… 石原 真弓  
取締役(社外) …… 末川 久幸

### 関連企業 (2014年3月31日現在)

Nitta Gelatin NA Inc. (米国)  
Nitta Gelatin Canada, Inc. (カナダ)  
Nitta Gelatin USA, Inc. (米国)  
Nitta Casings Inc. (米国)  
Nitta Casings (Canada) Inc. (カナダ)  
Nitta Gelatin Holding, Inc. (米国)  
上海新田明膠有限公司(中国)  
北京新田膠原陽衣有限公司(中国)  
Nitta Hong Kong Ltd. (中国)  
Nitta Gelatin Vietnam Co., Ltd. (ベトナム)  
株式会社アイビス  
株式会社アルマコーポレーション  
株式会社ニッタバイオラボ  
彦根ゼラチン株式会社  
Nitta Gelatin India Ltd. (インド)  
広東百維生物科技有限公司(中国)  
ボスティック・ニッタ株式会社  
Bamni Proteins Ltd. (インド)  
Reva Proteins Ltd. (インド)  
新寿サービス株式会社

常勤監査役 …… 中井 康之  
監査役(社外) …… 東郷 重興  
監査役(社外) …… 津田 多聞  
常務執行役員 …… 山本 健男  
執行役員 …… 竹宮 秀典  
執行役員 …… 山本 祐二  
執行役員 …… 小田 義高  
執行役員 …… 高瀬 博  
執行役員 …… 杉本 芳久  
執行役員 …… ヨーゲン・ギャラート

## 株主優待

株主の皆様のご支援に感謝するとともに、当社株式への投資魅力を高め、中長期的に当社株式を保有していただける株主様の増加を図ること及び当社グループの事業へのご理解を賜りたく、株主優待を実施いたします。

### 〈株主ご優待制度の内容〉

#### 対象の株主様

毎年3月31日現在の株主名簿に記載された当社株式1単元(100株)以上を保有する株主様を対象といたします。

#### 優待内容

当社子会社の株式会社ニッタバイオラボが販売する、当社の消費者向け商品(健康食品、化粧品、ゼラチンなど)、もしくは、当社商品のお買物優待券をご所有株式数に応じて贈呈いたします。



株主優待商品例  
(3,000円相当)  
※諸般の事情により、商品セットの内容を変更することがございます。

## 株主メモ

事業年度	4月1日から翌年3月31日まで
定時株主総会	6月
基準日	定時株主総会 3月31日 期末配当 3月31日 中間配当 9月30日 そのほか必要があるときは、あらかじめ公告して定め た日
単元株式数	100株
公告掲載方法	電子公告により行います。ただし、事故その他やむ を得ない事由によって電子公告による公告ができな い場合には、日本経済新聞に掲載いたします。
上場証券取引所	東京証券取引所 市場第一部
証券コード	4977
株主名簿管理人 及び特別口座の 口座管理機関	三井住友信託銀行株式会社
同事務取扱場所	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部
(郵便物送付先)	三井住友信託銀行株式会社 証券代行部 〒168-0063 東京都杉並区和泉2丁目8番4号
(電話照会先)	フリーダイヤル 0120-782-031
(インターネット ホームページ)	<a href="http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html">http://www.smtb.jp/personal/agency/index.html</a> 取次事務は三井住友信託銀行株式会社の本店及び 全国各支店で行っております。

## 株式の状況 (2014年3月31日現在)

### 発行可能株式総数

50,000,000株

### 発行済株式の総数

18,373,974株

(自己株式 162株を含む)

### 株主数

5,781名

### 株式・株主分布状況

